

事業所における自己評価結果

公表

事業所名		SOUFIRST栄野比 児童発達		公表日		R8年 5月 22日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	メインフロア等、各部屋がドアで区切られている為、児童がいる部屋は必ずスタッフが見守りを行うようにしている。	活動スペースの確保と安全管理を継続し、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	児童発達の課題を行うタイミングと小学生のお迎え時間が被ってしまいスタッフが手薄になる場合があり、早めの課題時間をずらしたり小集団で対応できるよう日によって工夫している。	子どもの状態や利用人数に応じたプランナー配置を行い、個別対応の充実を図ります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	マットの所では思い切り遊ぶ場所、真ん中のお部屋では静かに勉強や遊ぶ場所とこどもたちに伝えている。・絵カードなどで一日の流れを視覚化している。	環境整備を進め、可能な範囲でバリアフリー化の検討を行います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日掃除を行っている。マットの部屋があるため安心して運動療育を行える。	清潔で快適な生活空間の維持と感染症対策を引き続き徹底します。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2	メインフロアと静養室が子供の過ごす場所になっているが必要に応じて事務室を使用する等して対応している。	個別対応が可能な環境を整え、安心して過ごせる体制を維持します。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		朝礼時に役割の分担を話し合ったりしている。どうすれば業務を効率化できるか常に試行錯誤している。	プランナー全体でPDCAサイクルを意識し、業務改善に取り組みます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎月保護者アンケートを実施し、フィードバックをもらっている。	保護者様の意見を積極的に把握し、業務改善にラボ全体で出来る範囲内で繋げていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎朝のミーティングを行い意見を把握する機会を設けている。	プランナーの意見共有を継続し、迅速な改善を行います。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		外部評価の活用と改善への反映に努めます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		ジョブメドレーをつかってeラーニングを行っている。また、社内の違うラボへ見学へ行き学ぶ機会を設けている。	研修や自己学習の機会を確保し、専門性向上を図ります。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		HPに公表されている。	支援プログラムの作成・公表を継続し、プランナー間の共有を徹底します。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		児発管が聞き取りを行い、各スタッフに共有し意見を取り入れ支援計画を作成している。	適切なアセスメントを行い、ニーズに基づいた計画作成を行います。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管が各スタッフへ聞き取りを行い色々な意見を取り入れながら作成している。	プランナー間での共通理解を深め、最善の利益を重視した支援を行います。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	課題をどこからでも確認できるようにGoogleスプレッドシートを使用している。	計画に基づいた支援の実施と情報共有を徹底します。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2		日々の観察と評価を継続し、支援の質向上につなげます。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画をもとに、日々の支援に取り入れられるよう意識している。	ガイドラインに沿った支援内容の設定を継続します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎月翌月のプログラムを話し合いを設けている。	チームでの活動立案を継続します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		プログラムが固定化しないように、毎月違う活動を取り入れながら翌月のカレンダーを作成している。	多様な活動を提供し、固定化防止に努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		課題の中で集団で行うものと、個別で行うものとわけて支援を行っています。	個別活動と集団活動を適切に組み合わせます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1		事前打ち合わせを徹底し、チーム支援を強化します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4		支援後の振り返りを行い、改善につなげます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日記録や写真共有を通して、支援内容を保護者へ伝え支援の改善につなげている。	記録の徹底と検証を継続します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		児発管を中心に行っており、その際にスタッフからの意見を取り入れている。	定期的なモニタリングと計画見直しを行います。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		現在は児発管がメインで参加しているが今後は現場スタッフも参加を促していく。	開催の場、主に児発管が参加しており、継続します
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて、通っている学校や保育園とも情報共有し、より良い支援が行えるようにしている。	医療・福祉・教育機関との連携を強化できるよう体制を整えられるよう努めます
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		学校と事業所での様子をお互いに共有しその子に合わせた支援を心掛けている子どもの様子を見て、一日利用から半日に移行するなどの提案をしている	関係機関との会議に適切なプランナーが参加し、情報共有を図ります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3		ご希望に応じて連携いたします
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	4		他のSOUラボでは、イベントを開催できている地域もあるので、ノウハウを学び、今後取り入れていきたい。地域交流の機会について検討を進めます。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		保護者との情報共有を継続し、共通理解を深めます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時の申し送りやHUGにて様子を伝えている。	家族支援の充実と情報提供を行います。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		家族支援の充実と情報提供を行います。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時などに説明し納得していただいたうえで利用開始している。契約前に直接説明を行なっている。	利用時の丁寧な説明を継続します。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		家族支援や日々の情報共有を通して家族の意向を確認している。	お子様や保護者様の意向を尊重した支援を行います。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			支援内容の説明と同意取得を徹底します。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		家族支援を通して行っている なるべく毎週相談できる機会を設定し、相談しやすい環境を整えている。	相談支援と助言の充実に努めます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		保護者交流の機会の充実を図ります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談の依頼があった際には、内容によって担当を決め適切な援助が行えるようにしている。	苦情対応体制を維持し、迅速な対応を行います。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		公式ラインを通じて、活動予定表をお送りしています。また、グループ全体のニュースも配布しています。	SNSや通信等による情報発信を継続します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人の名前がでないようにスタンプ等で隠すようにしている。データ化して、来客者などが閲覧できないように、紛失等の事故がないようにしている。	個人情報管理を徹底します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		児童が保護者に伝えることと、スタッフが保護者に伝えることの齟齬がないよう聞き取りを行っている。	分かりやすい言葉や方法を用いた意思疎通に努めます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		地域に開かれた事業運営に向け、イベント等を検討。
非	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		研修を行っている 定期的に避難訓練を行っている。また、マニュアルを作成し職員が見れるようにしている。	各種マニュアルの周知と訓練を継続します。
	46	業務継続計画 (BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			BCPの整備と防災訓練を実施します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1		服薬に関しては、情報共有されているが毎年度保護者様へ基本情報更新のヒヤリングを行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者から必要な書類等の提出をいただいている。	アレルギー対応の徹底を図ります。

常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			安全管理に関する研修と体制整備を継続します。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			安全計画の周知と保護者連携を強化します。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットに記入があった際は事業所内で共有している。	ヒヤリハットの共有と再発防止を徹底します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		オンライン等の研修も活用しながら行っています。	虐待防止研修と意識向上を継続します。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		契約時に説明させていただいている。	身体拘束に関する説明・同意・適切な対応を徹底します。